

1 「形式知」と「暗黙知」

報告書や各種成果物等、第三者が理解できる形態で提供されるナレッジと、各自の知恵・知識・技術、また、独自の経験・ノウハウ、更には個々人の持つ人脈等々、その人物自体をナレッジとするものとの2種類があります。前者を「形式知」、後者を「暗黙知」と定義します。

2 メタナレッジ

暗黙知の中でも、特に重要なナレッジが「メタナレッジ」と呼ばれるものです。「メタナレッジ」とは、目的の達成方法の知識であり、例えば「学習方法」、「整理方法」、「評価方法」、「編集方法」、「企画」、「発想」等々の汎用知識・技術の事です。また、これらを他人に求める事も重要であり、「相談できる人がいる」事自体がその人物の暗黙知となり、特に人脈連携が重要な位置付けになります。

5 創発

個人ベースに留まらず、組織全体への効果が期待され、これが創発を促します。

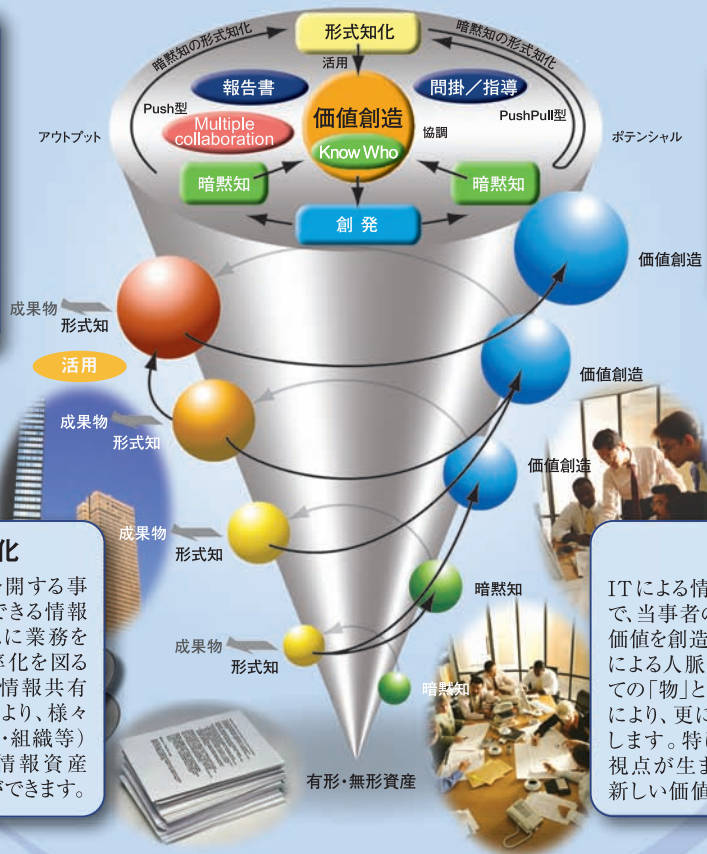
※創発とは蓄積されているナレッジと質的に異なる、高度で複雑な新たな創造を誘発することです。

3 情報の共有化

個々人の有するナレッジを公開する事で、その組織の誰もが利用できる情報資産となり、これらをベースに業務を積み重ね、大きな業務効率化を図る事ができます。ここで、この情報共有手段をITで構築する事により、様々な物理制約(距離・時間・人・組織等)を超え、その組織全体の情報資産共有化と活性化を図る事ができます。

4 価値創造

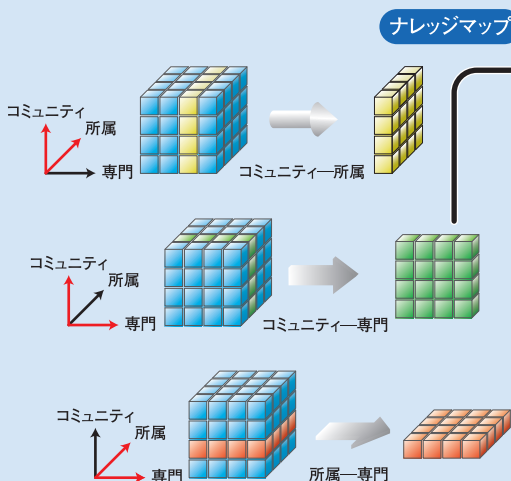
ITによる情報資産を有効活用する上で、当事者のノウハウを反映し、新しい価値を創造してゆく他、「Know Who」による人脈連携により、情報資産としての「物」と人脈としての「人」との連携により、更に優れた価値創造をもたらします。特に人脈連携により、新しい視点生まれ、暗黙知も更に深まり、新しい価値が創造されます。



K2Bによるナレッジマネジメント

■ 多次元定型解析機能

ナレッジの多次元解析を行います。



■ ナレッジの可視化

蓄積されたナレッジの直感的理解をサポートします。

